

**【プログラム3：人との接し方について考えようⅠ
～乳幼児との接し方～】**

《 形態：全 → 全体 個 → 個人 G → グループ 》

時間	形態	講座の流れ	
1分	全	1. ねらいを確認する。 [キーワード] ○ 相手に応じた接し方	【1分】
22分	全	2. 乳幼児との接し方について考える。 (1) これまでに赤ちゃんや園児とふれあった経験を話す。 ・全体に問いかけ、学級の傾向を把握する。 ・経験のある生徒には、どんなことをしたか、そのときどう思ったか等を紹介してもらう。 ※このプログラムでいう「赤ちゃん」は、出生から1歳になるまでの「乳児期」の子どものこととする。	【14分】
	個G	(2) 「赤ちゃんや園児と自分が2人で過ごす時間があったら、どんなことをして過ごすか、過ごしたいか」を赤ちゃんや園児の立場で考える。また、「気を付けること」についても考える。 ・ワークシートに考えを記入し、グループ内で考えたことを紹介する。	
	全	・オススメを全体に紹介する。	
	全	3. 赤ちゃんや園児が喜ぶ絵本や手遊びを知る。(2～3例) ※進行役が生徒に紹介する。家庭科の授業で学習したことを思い出すといいことを知らせる。	【5分】
2分	全	4. 感想等を紹介する。	【3分】
	全	5. まとめ ・社会性の広がりとともに、いろいろな人と接する幅も広がってくる。これからは、同世代の人ばかりでなく、年上の方、また、年下の人や幼い子どもたちとも接することがあるだろう。 ・その人と接する時には、その人に応じた接し方が求められる。自分の弟や妹に接している人もいるだろうが、「小さい子どもに接することがない。」という人もいるだろう。自分と同じ感覚ではなく、相手に応じた話し方や接し方ができるようになると、さらに自分の社会性も広がっていくだろう。	【2分】

【親になったときに考えてもらいたいこと】

- ・自分が乳幼児と接する時、自分の都合だけで言ったり、何かをしたりしても上手くいかないことが多い。自分のことを自分の言葉でしっかり伝えることができない幼児や赤ちゃんだからこそ、相手の思いをくみ取ろうとすることが大事だ。併せて、非言語コミュニケーション（見つめる、うなずき、笑顔等の表情、声のトーン等）も大事にしてほしい。